

【褒賞登録申請書・概要書】

事業名称	心のアカデミー
申請部門	・ 対外事業部門 ・ 対内事業部門

申請 LOM	中国地区山口ブロック協議会 一般社団法人下関青年会議所		
LOM 番号	041	LOM の人数	63 名
理事長名	津田 清彦		
担当者名	疋田 大地		
担当者携帯番号（半角）	090-4997-8822	担当者 E-Mail（半角）	champagne-supernova0925@ezweb.ne.jp

本事業の参加者	会員数	延べ 63 名	会員参加率	37%
	関係者数	1 名	一般参加数	76 名
事業実施に至った背景 200～400 文字程度	<p>先進地であるイギリスにおいては「ヤングケアラー」の問題は法制度化も進んでいて、国をあげて取り組むべき課題として認知されています。一方で、日本においては先日、救済法案の定める方針を固めはしましたが、各家庭のプライベートの事情ということで、学校などでも把握しづらいため公的な支援が出来てないのが実情です。</p> <p>また、過去にヤングケアラーを経験した方の 50%以上が進学や就職に影響や制限があったという結果も出ており、社会進出にも大きな影響を及ぼしており当事者の方々は自分らしく生きられない状態になっている。そのため市内の行政や関係各所の受け入れ体制や仕組みの向上が必要な一方で、周りの（特に友人などの同世代）理解や相談のしやすい環境も求められています。</p> <p>社会問題を通して当事者意識を持つ次世代の人材を育成することで、多様な環境や問題のある人々の相談のしやすい環境となります。そして公的な支援の後押しにつながり次世代にとって持続可能な優しい社会の一步になると考えます。</p>			
事業の目的 200～400 文字程度	<p>①ヤングケアラーの問題の認知度を高める（下関市内の高校生） →若年層の認知度が低く、知らないが故に理解してもらえない。そこで軋轢や疎外を生みヤングケアラーであることを周りに言えずに孤立してしまう。そうした状況を打破したいと考えた。</p> <p>②ヤングケアラーの問題を通して、他者を理解し受け入れる素養の構築を図る →この問題を通して同年代に多様な問題を抱えている人がいることを理解してもらう。</p> <p>そうすることで他者を理解して尊重する（他者に寄り添うこと）ができるようになって欲しいと考えた。</p>			

	<p>③今後の政策構築に向けて、協働の機会を創出する 役所や関係各所の方々と共に学ぶ機会を創りヤングケアラーの認知度を 上げることで、教育機関における対応がしやすくなり、行政におい ても一般の方に向けての政策も打ち出しやすくなり、民間との連携も 取りやすくなると考えた。</p>	
<p>事業の概要</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>①《心のアカデミー》の開催</p> <p>■第1部 インプット（講演会）</p> <p>ご自身がヤングケアラーであった講師（現在、一般社団法人ヤングケア ラー協会 代表理事）をお招きして、自身の経験を交えながらヤングケ アラーとは何か、どのような問題があるのかをご講演いただく。</p> <p>■第2部 アウトプット（ワークショップ）</p> <p>第1部で学んだことをもとにチームごとに、架空のヤングケアラーの方 のペルソナ設計を行い、その人にどのような環境で問題が起きているの か、どのような支援が必要なのか、そして自分たちに何ができるのかを グループ内で討論を行いヤングケアラーについて理解していただく。</p> <p>②動画配信</p> <p>《心のアカデミー》の当日の様子を編集して各高校に配布する。教材と して道徳の時間等で流してもらう。その後アンケート実施して回収を行 ったもの。</p> <p>■連動事業：4 月度講師例会</p> <p>4 月度例会において下関青年会議所会員に向けてヤングケアラーにつ いての講師例会を実施。</p>	
<p>開催時期・ タイムスケジュール</p>	2024 年 6 月 15 日（土）13：30～16：00	
	○：○	<p>受付/開場 13:00～13:30</p> <p>【第一部】講演会 13:30～14:30</p> <p>会場切替/休憩 14:30～15:00</p> <p>【第二部】ワークショップ 15:00～16:00</p> <p>アンケート及び質疑応答 16:00～16:20</p>

	閉会	16:20～16:30
開催場所	生涯学習プラザ 2F 多目的ホール 住所：山口県下関市細江町3丁目1-1	
事業区分 新規・継続	新規	
公益・共益区分	公益	
事業総予算・収支 200～400 文字程度	予算上の工夫と、予算の内訳の概算を記述してください。	
	【事業総予算】	¥600,000
	【収入の部】	
	本会計	¥600,000
	【支出の部】	
	会場設営費	¥39,320
	動画制作費（撮影費＋編集費）	¥220,000
	講師関係費	¥252,845
	広報費 (チラシ・ポスター・バナー)	¥66,664
	その他	¥21,171
＜予算上の工夫＞ 工夫① チラシ配布数を減らし、1校1校訪問した。(市内16校)		
協力団体	共催	
	協賛	
	後援	下関市
	その他	
事業対象者	・下関市内の高校生（25名） ・下関市内の行政や関係各所（教育機関など）	
行動(ACTION TAKEN) 200～400 文字程度	事業の調査、立案、会議の流れ、実施活動について記入	
	【現状調査】 下関市役所こども家庭課においてヤングケアラーに関する現状についてヒアリングを行い、下記事項を聞き取った。 ・周知を始めたばかりの状態である ・2023年9月に初めて市職員を対象にした研修を行った ・政策や認知度向上の動きも手探りの状態で難航中	

	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のヤングケアラーの総数も把握できておらず、民生委員の認知度も5割程度である ・民間への周知活動はポスターの掲示のみで、下関市内の認知度は低い <p>【立案】</p> <p>上記の下関市における現状及び全国アンケートから、若年層への認知度が低いことを課題であると考え、ヤングケアラーと同年代にある高校生に向けて講演会及び討論を行うこととした。</p> <p>【実施活動】</p> <p>心のアカデミーの告知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下関市内の高等学校を訪問し、学校及び高校生への本事業の周知活動 ・下関市の行政関係及び山口県教育委員会等に訪問して周知のお願い ・下関市役所においてプレスリリースと連動した記者発表を行った結果、新聞紙上に本が掲載された ・講演会実施後、講演会の内容を YouTube 動画で作成、編集を行い動画の QR コードをチラシに記載して市内高校に配布を行う
<p>結果 (RESULT)</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>複数の短い文章になるように下記項目毎に簡潔に記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的がどのくらい達成できたか 2. 上記の結果の想定外の結果 3. 上記の結果の確認方法 4. 検証結果 <p>1. 目的がどのくらい達成できたか</p> <p>ヤングケアラーの認知度を高めることが出来たと考える。また、第 2 部のペルソナ設計を活用したワークショップにおいて、各チームで活発に意見が出ており、目的に掲げた素養を構築する第一歩を踏み出せたと考える。</p> <p>ワークショップにおいて、高校生とその他参加者の方々がしっかりと対話することをもって今後の協働の機会を創出できたと考え。</p> <p>事業後の動画配信においても学校の部活動やクラスなど視聴をしていただけたことと、教師や行政の方も参考に視聴していただけた。</p> <p>2. 上記の結果の想定外の結果</p> <p>事業後の動画の再生数、アンケートの回答者数が伸び悩んだ。</p>

	<p>3. 上記の結果の確認方法 来場者アンケート、ヒアリング</p> <p>4. 検証結果</p> <p>【来場者】 下関青年会議所：25 人 市内高校生：26 人 一般参加者（市役所などの関係各所含む）：50 人</p> <p>【事業後の動画視聴数及びアンケート数】 2025 年 4 月 24 日（木）段階 動画再生数：96 回 アンケート解答者：71 人</p> <p>【満足度】 講演会は全体的に高い満足度を得ていたと考える。その中でも、高校生参加者の多くが参加前から参加後で考え方に変化があったことに注目したい。一般参加者を含めても、このような講演を広い地域で行うべきだという声や、ワークショップの内容を取り入れたい、学生の意見を聞ける貴重な機会になったなどの満足度の高い声を聞くことができた。講演会の動画の視聴をされた高校生及び教師の方や関係各所の方々からは「ヤングケアラーの事を細かく知ることが出来た」、「こども達への伝え方の参考になった」という意見が多く寄せられた。</p>
<p>地域社会への影響</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>この事業が与えた地域社会への影響を記入</p> <p>① 来場者認知度向上 ご自身もヤングケアラーであった講師の方から実体験をふまえた話を聴講することで、ヤングケアラーについて認知、理解することの一助となった。</p> <p>② 来場者自身の心の変化 講演後のワークショップもふまえて、自ら能動的に発言することにより、ヤングケアラーという問題を通じて、多様な他者を理解する心の醸成の一助となったと考える。</p> <p>③ 来場者以外への認知度の向上 当日の様子や来場者インタビューをふまえた動画を各校の授業で見ってもらうことで、より多くの方へ①、②の効果を届けられることができた。</p> <p>④ 行政への影響 ヤングケアラーに関してはまだまだ社会的認知度が低く、全国においても 30 自治体でしか条例が制定されていない状況である。（令和 6 年 3 月 27 日現在）その様な状況において、行政を巻き込めたことでヤング</p>

	<p>ケアラーへの対策が進んでいく 第一歩を踏み出せたと考える。</p>
<p>LOM への影響</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>この事業が LOM に与えた影響を記入</p> <p>事業実施年度は「Harmony 心を通わせ協働しよう」というスローガンを掲げている。他者を理解し、多様な個性が調和したときそこには大きな力が生み出される、そういった思いをのせている。JC は種を蒔く団体であり、他団体に先駆けてこの問題を扱ったこと、行政関係者や教育関係者の時計の針を一步進めたことは我々としても非常にやりがい、存在意義を感じている。また、我々が無知ではいけないと考え、事前に講師例会にて、元ヤングケアラーである宮本氏をお招きし、会員向けに現状や課題を把握する場を設けた。事前に知識をいれて、心のアカデミーに臨んだこともあり、会員全体でヤングケアラーに対しての問題意識が高まった。心のアカデミー実施後の、こどもを抱えている会員から直接講師の方への相談があったことや、経営者の多い当青年会議所において自分のことだけでなく従業員のこどもへの影響を気遣う声も複数聞かれたことは成果があったと考える。</p>
<p>事業の長期的な影響</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>この事業の期待される長期的な影響を記入</p> <p>講師の方と教育関係者、市の関係者を繋げることができたこと。（関係各所の研修の相談やお願いなどをさせていただくと話を伺っている）また参加された高校生は 24 人のうち 15 人が「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるという方だったが、参加前は「具体的な意味がよくわからなかった」、「家庭のことだから仕方のないこと」、「ただ家で家族の世話をしている人」などのイメージをもっている人がいたが、参加後には「周りの接し方ひとつで助けになる」、「小さなことでも助けになることがあるからもっと知りたい」という前向きな意見になっていた。また一般参加者からも「ワークショップのやり方が非常に参考になった」、など第 2 部のワークショップの内容を高校生ではなく関係各所で今後取り組みたい内容として評価された。また事業後実施した動画の配布も動画自体は今も YouTube にアップされている状態であり、動画配布用チラシも市内学校や関係各所の方々にも参考になるように配っているため本年度に入っても少しずつではあるが動画が再生されている状態であり今後も視聴数は少ないながらも増えていくと考えられる。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>検証を踏まえた次の行動を記入</p>

200～400 文字程度	<p>一連の事業を通じて、非常に解決の難しい問題であることを痛感した。ヤングケアラーの一番の願いは話を聞いてほしい、理解してほしいということである。そのためには継続的に認知度を広める活動が必要である。今回、講師の方に講演会の様子や来場者インタビューなどを教材として使用していいという許可を得たので、チラシに QR コードを使用して下関市内の各高校へ動画の配布を行った。当該動画は本年度に入っても少しずつではあるが再生されており、この事業が関係各所の方々のヤングケアラーの政策の参考になることや一般の方々や子ども達へのヤングケアラー問題の認知度向上につながっていくことを期待している。</p>
改善点 200～400 文字程度	<p>どのような改善点がありますか？</p> <p>■参加員数の制限</p> <p>討論会を設定するために参加者の上限を設ける必要が出てしまった。 →1部の講演会のみ参加者も募集すればよかった</p> <p>■事業対象者</p> <p>高校生だけでなく大学生、中学生などを含めて募集をすればもっと多くの周知を広げることが出来た。 →参加可能数を多くしても良かった。</p> <p>■講演会の内容</p> <p>講演の内容が高校生にもわかる内容のため、一般の方の参加者が少なかった。 →一般の方も参加できるワークショップを取り入れることを考えても良かった。</p> <p>■動画及びアンケート</p> <p>講演会後に行った市内高校への動画配布によりクラス単位で LHR での視聴を想定していたが授業のカリキュラムの調整の難しさなどから、動画を視聴するまでの時間がかかったこと、クラブ活動による少人数の視聴などの報告が多かった。 →教育委員会などの政策元を大きく巻き込んで事業の展開を考えても良かった。</p>
その他	その他のアピールや補足があれば記入

200～400 文字程度	<p>■本事業は私自身の体験を元に考えた事業です。自閉症の妹がいる家庭で学生の時は時間のない生活でした。その中で前を向いてこの年まで廃れずにいるのは理解を示してくれた友人の存在です。本事業は高校生のこども達にヤングケアラーという問題を通して他者を理解し受け入れることのできる素養の構築を図ることを目的の一つとしていますが、私自身が救われたのも受け入れてくれる人がいたからです。ヤングケアラーの問題は精神的にも重くのしかかる問題、それを理解し寄り添えるような人になって欲しいとの思いでこの事業を計画しました。</p> <p>■各高校に動画配布の際にヤングケアラー当事者に対しても取りこぼしのないように相談窓口の案内（行政との連動）を実施予定。行政から既存チラシを提供いただき合わせてチラシを配布。</p> <p>■行政にも当日の動画を提供して当内容のマチの意識向上や活性化させた。</p> <p>■上述の講師例会を活用して、JC 会員の知識を向上させた。（2 段階での事業構築）</p>
当日のストーリー写真 (PDF)	<ul style="list-style-type: none"> ・添付書類は 1 ファイルにつき A4 用紙で 2 枚以内（1 枚につき添付できる写真は 6 枚までとします。）で作成してください。 ・作成後 PDF 形式に変換して提出してください。 ・別途、事業に関する代表的な写真を 2 枚 JPEG データーでも提出してください。（PDF 資料と同じものでもかまいません） ・著作権及び肖像権を侵害する形での画像の使用は禁止します。
メディア掲載写真 (PDF)	
その他参考資料 (PDF)	
著作権及び肖像権	権利侵害が無い事を確認したらチェックをしてください。 <input type="checkbox"/>